

平成 25 年度

事業所名 : グループホーム ぼっかぼっかの家

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372500447		
法人名	社会福祉法人 やまどり福祉会		
事業所名	グループホームぼっかぼっかの家		
所在地	岩手県胆沢郡金ヶ崎町六原坊主屋敷36番地3		
自己評価作成日	平成 25 年 9月 17日	評価結果市町村受理日	平成 26年 1月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0372500447-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0372500447-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 25 年 10 月 15 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で楽しみのある生活ができるように支援している。季節ごとにお花見や夏祭り、敬老会等は併設している特養施設の皆さんと合同で行い、利用者同士や家族間の交流も多く楽しみとなっている。ボランティア団体の慰問やイベントも特養の地域交流ホールで行われ参加し、近所の方も来られて交流が図られる。  
敷地内の畑は花や野菜を育てる楽しみと収穫した野菜が食卓に並び、出来栄えや思い出話をしながら食べている。近所の方が自宅で作れた野菜を届けていただいたり、山菜とりや栗拾い等も招待を受け和気あいあいと楽しんでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な田園地帯に建つホームで、併設する特養ホームとともに開催する行事やボランティアの訪問もあり、地域住民との交流機会も多い。利用者とは、サービス開始時から「看取りまでつき合う」との方針であり、家族や本人の意向を確認しながら安心して暮らしができる状況である。また、「質の良いサービスの提供」は、「職員の満足度の高い職場」から、との考えのもとに職員のモチベーションの維持・向上を大切にしており、研修の機会を多く持って職員は勿論関係機関とも連携を重視したサービスを提供している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名：グループホーム ぽっかぽっかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を基に目標を掲げて取り組んでいる。朝のミーティングで唱和し意識の共有を図っている。	日直が創立時の理念三ヶ条を唱和して共有化をすると共に、職員全員の参加で、自分たちの目指すグループホームとは何かを毎月の職員会議で話し合いながら支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の神社のお祭りや幼稚園や小学校の運動会、発表会に招待されたり、慰問を受けて楽しんでいる。また地域の方の草取りや野菜の差し入れも多く交流が深まっている。	地域の夏祭りや幼稚園、小・中学校の行事に招待され交流を深めている。また地域の方の野菜や花などの差し入れもあり、住民が気軽に立ち寄り、四方山話ができるような工夫もしたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生やボランティアを積極的に受け入れ認知症の方の特性を理解していただいたり、地域の皆さんに広報紙を配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に運営推進会議を開催し、市町村関係者や地域の代表者、家族の代表の方に出席頂き運営状況や活動状況を報告し意見交換しサービスの向上に努めている。	隔月の運営推進会議を開催し各関係者の出席で介護保険の利用状況や介護度の急上昇とその対応、夏祭り等の行事についての話し合い等がなされ、家族の発言も多く、意見が実践・運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議や市町村主催の研修会に参加し情報交換をしている。また月1回介護相談員2名の訪問で和やかにコミュニケーションが行われている。	地域ケア会議への参加による困難事例の検討、包括支援センターとの情報交換、町委嘱の介護相談員を介したケアサービス状況の客観的情報収集など、町・関係機関とは緊密な協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会において身体拘束防止の確認をしている。全職員で身体拘束廃止について勉強会をしている。	「身体拘束とは」の研修を定期的に関催し再確認しており、筋力減退した退院後の利用者もベット柵やつなぎ服なしの介護で脚力の向上に努めている。また、禁止や命令などの言葉による拘束もないようにも留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が高齢者虐待防止に関する研修を受け、職員に報告伝達しその重要性について周知している。又、発見シートやヒヤリハット、事故報告で検討会を随時実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が自立支援事業と成年後見制度について研修し職員に報告し話し合いをしている。権利擁護に関するパンフレットを提示している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は「重要事項説明書」「契約書」「個人情報」「医療連携指針」を提示し十分説明を行い不安や要望をお伺いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際は利用者の様子を家族に伝え、家族の意向を聞いている。苦情窓口について説明し、施設内に投書箱を設置し、苦情や意見があった場合はミーティングで検討し運営定例会議に報告し取り組んでいる。	利用者・家族が本音が話せるように、コミュニケーションの取り方や傾聴についての研修を行っている。家族からは面会時や電話などの機会に意見・要望を把握し会議などで検討しながら運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務の意見は随時話し合い解決するようにしている。困難事例については運営定例会に提言し検討している。	毎日のミーティングによる話し合いや会議を重ねて意見等を把握している。介護度の高い利用者用介護ベット・個室へのエアコン導入などを実現し、利用者は勿論、職員にも優しい介護を具現化している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを作成し、職員が個々に具体的な目標を持って働けるよう努めている。又、人事考課制度を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間で研修計画を立て経験年数や職員本人の目標を考慮し受講させている。又、新しい職員を対象に一定の期間で職場内において先輩職員が講師となり基礎的な研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の奥州、金ヶ崎ブロックに所属し定例会や職員交換研修に参加して情報交換や意見交換を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と家族と面談をし、十分な情報収集に努め安心して利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には家族が困っていることを明確にし、家族が訪問した時には近況を報告したり、家族の要望を聞くよう努めている。又、家族が気軽に訪問できるよう職員との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で既往歴や生活歴を考慮し職員全体で情報を共有し支援を開始している。又、生活パターンや注意が必要な点を細かく記録しておき検討会で優先して支援すべき事を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に昔の習慣や季節の料理等を教えてもらう場面があったり、掃除や料理をお願いし互いに支え合い暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が訪問の際には近況を報告したり、行事やイベントには利用者と一緒に参加してもらえるよう呼びかけている。又、夏祭りや敬老会では家族や職員も一緒に食事をしながら楽しいひと時を過ごしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望を取り入れ馴染みの場所にドライブに出かけたり馴染みの人がいつでも気軽に会いに来れる環境づくりに努めている。	家族・兄弟・親戚の面会のほか、盆・正月には自宅に外出する利用者もおり、関係が継続できるように支援している。隣のデイサービスで一緒だった人との交流も深くなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの利用者に役割を持ってもらう事で利用者同志が協力しながら生活している。又、ドライブや行事等の活動を企画し利用者同士が親睦深められるようにしてやる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて情報提供を行っている。又、契約終了後も気軽に立ち寄り、悩みや相談がしやすいような環境づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりに担当職員を決め、常に利用者が安心して思いを話せるよう努めている。又、「私の気持ちシート」を作成し利用者の現在の思いを汲み取る工夫をしている。	「私の気持ちノート」を活用し、利用者の思いを家族職員で共有し合うように努めている。また一人ひとりに担当職員を決めて、職員会議で具体的な対応についてどうすべきか話し合っている。	コンサートや芸術鑑賞に触れる機会をつくりたいとの考えもあるので、心配ごとや不安感解消の一助としても、催しもなど芸術・文化に触れる機会が実現できるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者だけでなく、家族やこれまでに関わってきた事業者へも情報提供をお願いし、情報収集に努めている。又、利用者とのコミュニケーションを通じこれまでの生活の様子や趣味、嗜好の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体が情報を共有するために申し送りや毎日の記録を確認しその日の様子や変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見、要望を聞き、医師、看護師と連携を図りながら職員全体で個々のニーズに即した介護計画を作成している。	本人・家族・関係者と話し合い検討して計画を作成し家族の同意を得ている。家族は「今のままで」という意見が多く、また家族内で意見が異なる場合には、キーパーソンとともに調整を図り支援につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者のその日の様子やその他の情報は個々のケース記録に記入し、それを確認する事で情報を共有している。又、日々話し合いをしながら介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期利用型共同生活介護、医療連携体制の指定を受け、柔軟な支援が図られている。又、希望があれば通院の送迎や付き添い介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館マナビーが巡回で本やCDを届けてくれたり近所の産直の餅まきやイベントに招待され楽しんでいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医と連携を密にしている。グループホームへの往診をお願いしている医療機関もある。家族から希望があれば通院介助も行っている。	入居前のかかりつけ医や協力医との連携は密にしている。往診に対応している医療機関もあり、看護師が本人の意向・状況を聞きながら適切に受診対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する特養の看護師が兼務しており利用者の体調を常に報告している。24時間オンコール体制を取っており日常の健康管理や医療支援を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院から退院に至るまで本人、家族の不安を軽減できるよう家族と相談しながら医療機関へ情報提供を行っている。入院期間は定期的に訪問し経過を聞くなど連携を図り支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する指針を定めサービス開始時に十分説明を行っている。状態の変化があるごとに家族と話し合いの場を持ち、家族の気持ちの変化や利用者本人の思いを確認している。	職員は「ターミナルについて」の研修を毎年行っている。これまで3名の方の終末期介護と看取りの体験をしている。サービス開始時に主旨説明はしているが、本人・家族の気持ちの変化も前提としながら対応している。	「しのぶ会」を自然発生的に利用者と共に開催したとのことであったが、今後も続けてほしいです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に関心肺蘇生法やAEDの使用法の講習を受けている。又、看護師による応急手当の職場内研修会を開催している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、消防署や防災機器メーカーの指導のもと、消火設備の説明と使用方法を確認している。又、災害時には併設の特養ホームが避難場所となっており地域住民の避難場所として提供している。スプリンクラーを設置している。	年2回避難訓練を実施しており、防災設備の確認・操作方法・通報訓練も行っている。夜間は併設特養の夜勤者3名と連携しており、近隣住民の協力を得られる体制も整っている。	災害発生時に隣近所から古米や野菜等の寄付があり、日頃の交流の大切さを再確認したとのこと。今後も大切にしたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「言葉のチェックリスト」「OJTチェックリスト」を活用し日々の利用者に対する言葉掛けや対応を振り返り見直している。	発言やその裏の思いを推し量ること、また利用者のプライドを傷つけないよう、言葉のかけ方など職員自らの気づきを大切に研修を重ねながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと話を聞き、利用者の思いを受け止め利用者が自分の思いを話せるような雰囲気作り心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の立場になって対応し、その日の過ごし方の支援を勧めるよう常に意識統一を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月馴染みの理容師が訪問し利用している。希望の髪形を伝えながら散髪してもらっている。又、利用者と一緒に季節に応じた衣類を選んだり化粧をしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に畑で野菜を育て収穫した野菜を用いて食事を作っている。野菜の皮むきや配膳、食器の片付け等は利用者と一緒にやっている。時には外食を企画し好きな物をメニューの中から選んでもらっている。	利用者と共に作った野菜や近隣から頂いた食材を使って、その時々献立にし、利用者それぞれの持分で協力し合っている。外食の機会には好きな物を選び時には誕生日のケーキを買って楽しんでいる。	月に一度くらいは利用者と担当職員で外出したいという職員の思いもあるとのこと。コミュニケーションの深化の為に実現してほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事の摂取量が極端に少なかった場合は記録に残し、看護師に報告している。食べ物や飲み物の好き嫌いを把握し好みに合ったものを個別に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人のペースや習慣に応じ支援し、毎日入れ歯の洗浄を行っている。定期的に歯科医の往診があり、個人に合わせた磨き方指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。夜間はポータブルトイレを使用している方もいるがトイレに行きたい希望がある時はトイレに誘導支援している。	プライバシーの保護と自律心の保持のため、一律の対応ではなく体調と排泄パターンに沿った誘導を行っている。安心感のため夜間はポータブルトイレを利用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝と日中はお茶の時間を設け皆さんに水分が摂れるように工夫している。個別に希望された場合もその都度提供している。又、食事には野菜や乳酸菌も多く取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆったりした気持ちで入浴ができるように1人づつ入っている。本人の希望により入浴時間や回数も可能な限り調整している。	3年前に座位から入浴できる開閉式の個人浴槽を入れ、利用者の安全と満足度が向上し、職員の負担が軽減し対応力がついている。入浴時間や回数も個々人に合う支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるように日中の過ごし方を工夫したり、心身状態を把握し落ち着いた気分で入眠できるように支援している。又、居室の環境、室温や照明等に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師やかかりつけ医と連携を図りながら行っている。薬の説明書でも内服の仕方や副作用を確認し与薬は必ず複数で確認し合って行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみや生きがいを持てるように日課の中に食材の野菜を切ったり、盛り付けや配膳、後片付け等1人ひとりに合った役割が持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に応じ買い物やドライブ等の支援を行っている。又、近所の方の中には毎年、栗拾いやふき取りに自宅敷地を開放してくれる方がおり、利用者の例年の楽しみとなっている。	恵まれた自然環境のもとで散歩や山菜採り、栗拾い等を楽しんだり、施設の菜園や花畑で採取したりして過ごしている。春の花見や紅葉狩りの他に買い物、ドライブに出かけたり、家族の協力のもとに墓参りに行っている。	利用者とその担当職員という少人数で外出し、ゆったりとした時間を過ごしてみたいという希望があるとのことなので、実現を期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭の管理が出来る方と預かり管理をしている方がいる。玄関には自動販売機が設置しており自由に購入できるようになっている。又、ヤクルト等の訪問販売があり、その都度利用者へ知らせ自由に購入できる支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった場合には職員が代わってかけ、本人へ繋いだり耳の遠い利用者には間に入り要件を伝えたりしている。目の不自由な利用者へは郵便物を代読しわかりやすく説明を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間からは外の景色が見られ採光も良い。又、季節に応じたみずき団子、雛人形や七夕等の飾りがあり、常に季節の草花も生けてある。	食堂や居間からは恵まれた山野と田畑が一望できるとともに、近くの施設の畑や花壇を眺めたり、絵画や手作りの作品が飾られているなか、利用者は、談笑している人・うたた寝している人等それぞれ思い思いにゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、ホールにはテレビ、掘りこたつ、リクライニング椅子、ソファーがあり自由にくつろげるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には利用者の好きな花や絵、写真等を飾りそれぞれに合った雰囲気作りに努めている。自宅から使い慣れた家具等自由に持ち込む事ができる。	使いなれた家財道具、絵、写真、位牌等を思い思いに置き、自分の部屋として使いこなしている。散歩途中で摘んだ草花の鉢などを飾る利用者もあり、一人ひとりの思いや個性がにじみ出た居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自分の居室がわかりやすいように工夫している。個室内において安全に行動できるよう個々に応じた対応に努めている。		